朝顔日記の深雪と淀君

上村松園

青空文庫

美人画といって画家が美人を専門に描くようになったのは日本では浮世絵以後のことだろうと思われますが、浮世絵画家のうちで私は春信と長春が好きです。

近頃、しきりに若い人達に流行(はや)っている女の絵に対してはどうもわたしには賛成の出来かねる節が沢山あります。女の画を描くといえば必ず美人を描かねばならないとも思いませぬが、すでに芸術であり美術である以上、作られた作品がただ単に醜悪不快の念を観る人に与えるばかりでは、芸術としての価値が減ずるようにさえ思われます。したがってここに人々に依って異なる芸術観も出るわけでありましょうけれども、近頃流行っている女の絵を見ますと、毒々しいほどに肥った顔、手足、まるで女の相撲取を見るように不快な感じを与えられるのが沢山ありますが、人々の趣向が美しくなくともせめて不快でない程度に向って欲しいものだと思います。

画家が描こうとする画題を他から限定される性質のものでないことはいうまでもありませぬから、ある場合には乞食を採り入れる必要のあるような構図が出来るかも知れませぬ。たとえばそのような場合にしましても、乞食の醜悪のみを写し出して、観る者に不快の念を与えるような図にしなくとも済まされるはずだと思います。乞食は乞食にしても、何処かに芸術になる何かを持っているはずです。それを捜し出し写し出すところに芸術家の使命があると思います。醜女の醜を描く必要のある場合にしましても、幽霊の凄さを出す必要がある場合にしましても、

それらがほんとうの意味の芸術に触れているとしますれば、きっと観る者に不愉快を与えないはずだと思われます。ほんとうの芸術は観る者に不快の念を与えるものではないはずだと思います。

と言いましても、人にはそれぞれ好き不好きもありましょう。私にしても好き不好きがないとは申しませぬ。けれども私は、美人の美しさというものに偏した見かたをしたくないと思います。鈴のような眼の女には愛嬌を認め、細い眼の女には上品さがあります。長い顔にも円顔にもそれぞれに特長があります。そしてそれらは皆それぞれに美人の資格となることが出来ると思います。——こう見て来ますと、どんな女が美しいという固定した言いかたは出来ないことになって来ると思われます。

時代から言いましても、桃山には桃山の特長があり、元禄には元禄の美しさがあると思います。強いて言えば現代の風俗が一番芸術味に乏しいと思います。尠くも私は現代のハイカラ姿が一番嫌いです。

現代は女の扮装法にしましても、化粧法にしましても昔に較べれば、較べものにならないほど各方面とも著しく進歩して便利になっているはずですのに、なぜその風俗が非芸術的に見えるのでしょう。それは、女自身がそれぞれ自分の性質なり姿顔形なりにしっくりふさわしいものがどれだというしっかりした考えがなくて、ただ猫の目のように遷り変わる流行ばかりを追うからだと思います。自分に似合っても似合わなくても女という女が皆、二百三高地が流行れ

ば二百三高地、七三が流行れば七三と、長い顔の人も円い顔の人も、痩せた丈の高い人も肥った背の低い人も、一様な風をするものですから其処に少しも調和のとれない、混雑した、落着かない好もしからぬ風俗が出来上るのだと思います。

近頃の電車の中などでも、昔のように丸髷や文金などの高雅な髪を結った人が少なくなりまして、馬糞をのせたような手つくねの束髪を余計に見るようになりましたが、どんなに上等な美しい服装も一向に引立たないで、お気の毒な気もしますし、時には浅ましくさえなって現代を詛いたくなります。

流行っても流行らなくても自分に似合ったところはこれだと思った風をする考えが、女の人に出て来るようにならなければ嘘だと思います。私には、どうしても昔からの髷は一番日本の婦人にはしっくり似合うように思われます。

それでは昔からの日本の婦人で誰が一番好きだ、と言われますと、これは風俗からではなくて心の現われからという風に思われますが、私は朝顔日記の深雪と淀君が好きです。内気で淑かな娘らしい深雪と、勝気で男優りの淀君とは、女としてまるきり正反対の性質ですけれど、私にはこの二人の女性に依って現わされた型が好きなのです。まだ盲目にならない深雪が、露のひぬま……と書かれた扇を手文庫から出して人知れず愛着の思いを舒べているところに跫音がして、我にもあらず、その扇を小脇に匿した、という刹那のところを一度描いたことがあります。淀君はまだ描いて見ませぬがいずれ一度は描いてみたいと思います。

青空文庫情報

底本：「青眉抄・青眉抄拾遺」講談社
　　1976（昭和51）年11月10日発行
初出：「大毎美術　第三巻第四号」
　　1924（大正13）年4月
入力：鈴木厚司
校正：川山隆
2007年4月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

朝顔日記の深雪と淀君

上村松園

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/